

日常生活の課題整理シート(事務局案)

荒川地区

項目	①具体的事象	委員	②課題	③解決するための方向性	④提言書の記載内容
子育て	・子供達が遊べる屋内施設がほしい(児童館、図書館)		近くに子どもの遊び場が少ない(特に屋内)	(1)総合型スポーツクラブを活用して、子どもの放課後の過ごし方を支援する	
	・坂町病院の産科復活		医師不足など、坂町病院の本来あるべき機能が充分はたされていない。	(1) 胎内市・関川村と連携した県への要望を継続して推進する。	
	・出産の場合、村上総合病院か新発田でしか産めないのは不便で、強いては人口増への阻害要因とも言えなくもない。				
	・小児科の診療を午前だけでなく午後にも				
	・子育て中の人達にとって子供の急な発熱など、心配が絶えないと思う。				
	・子育て環境の整備は、少子高齢化の中で緊急的な課題である				
	・通常の保育施設や遊び場等については必要最低限のものが整備されているが、今必要とされているのは、病児・病後保育及び産科、小児科の充実である。				
	・「定住の里づくり」のためには、若者が安心して子どもを産み育てることができる環境づくり必須だと思う。				
	・今は子育てをしながら仕事をしている女性が多い(病児保育の充実)		安心して仕事と子育てが両立できる環境になっていない。	(1) 坂町病院での病児・病後児保育施設を整備する。 (2) 地区内の保育園の運営方法を統一する。 (3) 地域内で子育てを支援する取り組みを推進する。(民間で乳児園の開設等) (4) 保育行政の充実を図る。	
	・病後児保育施設を坂町病院に設置する構想を、早期に実現させて欲しい。				
	・産休・育休明けで保育園を利用する際、一時的であっても兄弟で別々の保育園に通うことになるのは、親の負担になる。(学区外の保育園に入った場合、小学校入学時に子供だけでなく親も不安を感じるので、そういう事が起こらないよう配慮して欲しい)				
	・待機児童がないようにする。				
	・子育て支援(一人っ子を少なくするために)				
	・地域の人達が子育てを応援できたあらいいな				
・子供達が遊べる屋内施設がほしい(児童館、図書館)					
・非正規雇用の保育士は、資格を持っていても正規職員と同等に保育業務に携わっていても、保育園の子育て方針や運営には直接関われない。人を育てる仕事は、単に物品を製造するというとは異なり指示された通りのことをやっていたら済むことではない。					

項目	①具体的事象	委員	②課題	③解決するための方向性	④提言書の記載内容
買い物	・子供服や靴を買える店がない		買い物を楽しむ場所がないので、地区外へ出かけなければならない。	(1) 都市計画の中で、駅前及びその周辺地区と一体的にゾーニングし新たな機能を付加していく。 (2) 用途地域の見直しを行い、事業所の進出を誘導する。	
	・家族向け、子供連れで食事ができる所がほとんどない。				
	・地元の食材を使った農家レストランのようなお店が出来たら良いと思う。				
	・駅前周辺に食料品などが買える場所が無い。		地元の商品など身近に買い物ができる場所が減ってきている。		
	・駅前にあったスーパーや商店が廃業するなど、中心市街地の空洞化が進んでいる。				
	・一番便利はずのところが、今は一番不便なところになってしまっている。(夜には、人が歩いておらず、ゴーストタウンのようにになっている)				
	・大型店があるので便利な所もあるが、逆に不便な所もある		日々の買い物に困っている人が増えてきている。		
	・高齢化に伴い、集落に惣菜などの日常の食料品を買える店がなく、ショッピングセンターに行く事が出来ない高齢者世帯が増加している。				
	・様々な家庭環境により買い物難民がない訳でもない				
	・高齢者のみの世帯が増えており、その多くが買い物難民化してきている。(経済的支援も必要などかなりある)※移動手段を持っていない人だけでなく、自由に動けなくなり外出そのものが出来なくなっている人も多くなってきている。				
	・国道沿線に大型店ができたのだが、高齢者にとって国道を超えて行かなければならないのは、距離的なものだけでなく精神的にも大きな負担となっている。				
	・近くにちょっとした買い物ができる場所があったのだがなくなってしまった。(直売所など)そういうところがあると便利なのだが。				
	・高齢者の買い物が不便である。				
	・一人暮らしの高齢者が買い物しやすい場所にする。				
・大手2社の競合により廉価の好影響下にある。					

項目	①具体的事象	委員	②課題	③解決するための方向性	④提言書の記載内容
交通	・国道や高速道が存在、交差し、非常に便利な立地となっている(車社会として)		交通の利便性を活かしきれていない。	《その他の項目で総括》	
	・交通の便は割と整っている、住みやすい地域になると思う。				
	・鉄道の要所として繁栄を遂げてきた町として、米坂線の在り方について、広域的に見直す必要もあるのでは、と考える。		米坂線の魅力が埋もれている。	(1) 米坂線整備促進期成同盟会と連携し、村上発(企画)のイベント等を実施する。 (2) 米坂線、南部連絡道を軸にした広域観光圏の創設を推進する。	
	・のりあいタクシーは、行き先が病院や金融機関などに限られているなど、買い物などで利用したくても利用できない。		地域住民のニーズに合った運行がされていない。	(1) 公共交通の拡充を図る。	

項目	①具体的事象	委員	②課題	③解決するための方向性	④提言書の記載内容	
教育	・小中学校の冬期間の登下校時のバスを利用できる地域をもっと増やして欲しい。(子供の数が減少しているので、バスの座席も空いているのでは?)		冬期間の送迎バスの運用基準が厳しすぎる。	(1) 同一集落の小中学生の対応を統一する。 (2) 児童・生徒の健全育成を踏まえ、バスの運用基準の見直しを行う。		
	・中学校の部活の遠征でもっと市のバスを利用できるようにして欲しい		市のバスが利用できなくなった。			
	・集落のプールの廃止に伴い、水泳による体力の向上や水に親しむ機会が減少している。(水の事故にもつながりかねない)		子供達が安心して遊べる場所が無い。	(1) 学校プールの開放できるよう、施設及び体制の整備を進める。 (2) プレーパークの導入を推進する。		
	・以前は各集落にプールがあり、いつでも泳げる環境にあったが、現在は泳ぎたくても身近に泳ぐ場所がない状況である。					
	・文化伝統を守り続ける”承継”問題と、それを教育の現場(授業等)で指導する時間が必要(総合教育として)		地域の伝統文化に接し、学ぶ機会がない。(少ない)	(1) 文化活動への支援を拡充する。 (2) 地域の魅力を学ぶ取り組みを推進する。 (3) 活動団体と行政との協働事業の創設及び推進する。		
	・文化協会等地域の文化団体は、地区公民館の援助を受けながら、地域の埋もれかけた文化を掘り起こしたり、またそれを維持し、地域に根ざした文化の継承に力を尽くしている。ぜひ、地域文化を掘り起こし育てるという観点で、生涯学習という見方からのみでなく、文化行政としてさらなる財政援助をお願いしたい。					
	・行政が積極的に関わり地域や人、文化を育てていくという姿勢が大切である。					
	・活発な活動を醸成する部分で、“あいさつ”等が飛び抜けるような、特化した活動も望まれる。			積極性、自主性を育む教育が不足している。		
	・障害のある子供を安心して預けられる場があればよい			子供達が等しく学ぶ機会がもてるため場所・制度がない	(1) 奨学金制度を個々の状況に応じて柔軟に対応できるよう制度の見直しを行う。(運用する) (2) 地域内で学習意欲のある子どもを支援する取り組みを推進する。 (3) 保育園及び学校で、障害を持った子どもを受け入れられる体制の更なる充実を図る。	
・奨学金制度は一層拡充して欲しい。学卒者の収入の現実を踏まえ、過度の負担にならない方策を是非考えてほしい。						

項目	①具体的事象	委員	②課題	③解決するための方向性	④提言書の記載内容
行政	・市町村合併によって、旧町村の中心商店街等の空洞化が顕著に表れている。		人の動きがなくなり地域の活力がなくなってきている		
	・合併によって中心部はいいが、各地域では人の動きがなくなり地域の活力がなくなっている。				
	・合併すると中心地に何でも出来る傾向がある				
	・合併により、支所機能の低下が見られる。(地域住民とのコミュニケーションや行催事の対応も難しくなっているのではないかと)		縦割り制度、横並び主義が、住民サービスを低下させている。	(1) 地域課題の解決や地域を活性化するための提案型事業制度の導入を図る。 (2) 市民と行政との共働事業の拡充を推進する。 (3) 支所機能の充実を図る。	
	・支所に権限がないために、スピーディーな行政サービスが出来ていない。(今は、住民が現状に慣れてしまっ てはいるが)				
	・支所の判断で出来そうな事まで、本庁に確認してから の対応になっている				
	・支所機能を向上させる事で、合併してよかったという声 がでてくるはず。				
	・合併して何もいいことがないので、元に戻ることはでき ないのですかと聞かれることがある。		合併前の良かった面が失われた負の印象だけが残った 反面、良くなった点が伝わっていない。		
	・住民の不平不満が多々出るようになってきた。				
	・合併前までは、ある程度の事まで行政で面倒を見てく れていたが、経費削減の関係からカットされるところが 多々出てきて不満が出てきている。				
・地域の声は、それぞれに違うはずである、一律の対応 ではダメである。支所に権限を与え地域にあった対応を すべきである。		地域の特性が施策に活かされていない。			
・行政サービスのシステムを再構築する必要がある。					

項目	①具体的事象	委員	②課題	③解決するための方向性	④提言書の記載内容
その他	・他の地区と違い荒川地区にはこれといって観光できる場所があるわけでもない。また、何が「魅力か？」と聞かれても特に思い付かないので、遠方から来た人にもお勧めできる特産品があればいいと思う。		シンボリックな場所・物がなく、地区の魅力を感じにくい。	(1) 地域の魅力を学ぶ取り組みを推進する。	
	・県外出身の人に村上弁講座を開いて欲しい。				
	・安心して子どもを産める環境を整えば、この地区に住みたいと思う若者は増えると思う。せつかく現存する坂町病院産婦人科の設備が今のままではもったいない。		人口減少・少子化対策で、荒川地区の特性、優位性が活かされていない。	(1) 行政主導で、若者向けの宅地分譲を行う。 (2) 補助制度を見直し、若者及び地区外からの転入者の住宅購入に対する支援の拡充を図る。 (3) 開発業者への支援を行う。 (4) 用途の見直しにより企業が進出しやすい環境を整備し、企業誘致を推進する。 (5) 坂町病院の機能強化を促進する。 (6) 各種サービスがワンストップで受けられる体制を整備する。 (7) 公営住宅の整備を推進する。	
	・地域の中で子供が遊んでいる声を聞く事が少なくなった。				
	・若い年齢層の人達が住みやすいよう、支援して欲しい。				
	・雇用の確保が出来れば良いが、荒川地区でどこまでそれは可能だろうか。とすれば、とりあえずベッドタウンを目指した方がよい				
	・業者による宅地分譲を新聞折り込みチラシで最近見かけるが、若者には到底手のでない価格で、今の若者の賃金では、ローンを組む事が難しい。				
	・ベッドタウン化を図っていくのであれば、若者にとって魅力のある支援・施策を充実させないといけない。(若者向けの公共住宅など)				
	・クロッカス団地を創設したことで、多くの子どもたちが金谷小学校に通っている。				
	・若者世帯が増えることで、子どもたちの声が聞こえるようになり、そのことで地域が元気になる				
	・隣接の市町村に転出する若者が多い。				
	・保内地区だけが発展するのではなく、金屋地区にはICがあつたり発展する要素はあるので、均衡ある発展ができるようなあ施策が必要				
・稲作を主体とした当地域は、TPPの合意により厳しい状況をむかえることになる。		主要産業である農業の振興策が急務である。			
・地域的な連携(特にイベント等)の必要性(市としての取り組みの整合性が求められる)		地域内外の各種団体の連携ができていない。	(1) 地域内の年間行事カレンダーを作成、全戸に配布する。 (Web上に最新のカレンダーを掲載する)		
・自然豊かな地域を守って欲しい。		自然環境に対する理解や保全意識が不足している。	(1) ホテルの里づくりの取り組みを全地区に広める。		

項目	①具体的事象	委員	②課題	③解決するための方向性	④提言書の記載内容
	・簡単な作業(電球の取替など)でも、高齢者は不便を感じている		誰もが安心して暮らせる環境整備が必要だ。	(1) 集落等のコミュニティーを活用した支援体制の構築を図る。	
	・5地区とも同一の施策ではなく、各地域の特性にあった目玉的な施策は必要である。		それぞれの地域の特性が活かされていない。	(1) 地域課題の解決や地域を活性化するための提案型事業制度の導入を図る。 (2) まちづくり活動への支援を拡充する。	
	・交通の利便性が良い点など、荒川の優位性を生かし切れていない				
	・独身者が多く、家を守る人が途絶える可能性のある世帯が増えてきていて、将来集落の維持も難しくなる可能性がある。		独身者が多く、家を守る人が途絶える可能性のある世帯が増えてきていて、将来集落の維持も難しくなる可能性がある。	(1) 婚活事業の拡充を図る。 (2) 空き家を活用した事業を集落が主体となって行えるような制度を構築する。	
	・個の時代になり、以前のようにお節介さんがなくなった。				
	・若い人同士が会う機会が少ない				
	・スポーツや趣味など互いの共通した事項で集める必要がある。				
	・30代後半から40台になると人の集まる場所に出づらくなる。				